

科 目	社会の理解	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	自身の生活から想起し、他者の生活、社会との関りを理解していく。また、社会全体の動向から個人の生活へ視点を戻していく。個人の自立した生活と、社会との関わり、制度ができるまでの歴史の変遷から現代の社会保障を考える。本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わり、社会保障や介護等に関する制度について学ぶ。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している諸制度に関する理解度を測るために、到達確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション	自分を取り巻く人間とその関係について、振り返っておく	
2 .	生活と福祉(1)	前回の復習をする	
3 .	生活と福祉(2)	前回の復習をする	
4 .	生活と福祉(3)	前回の復習をする	
5 .	社会保障制度(1)	前回の復習をする	
6 .	社会保障制度(2)	前回の復習をする	
7 .	社会保障制度(3)	前回の復習をする	
8 .	介護保険制度(1)	前回の復習をする	
9 .	介護保険制度(2)	前回の復習をする	
10 .	介護保険制度(3)	前回の復習をする	
11 .	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する制度(1)	前回の復習をする	
12 .	高齢者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する制度(2)	前回の復習をする	
13 .	介護実践に関わる諸制度(1)	前回の復習をする	
14 .	介護実践に関わる諸制度	前回の復習をする	
15 .	まとめ	これまでの授業内容を振り返っておく	
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度(20%)小テスト(40%)授業内課題(40%) 各課題については授業内で評価・コメントをフィードバックします		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科目	介護と福祉	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について学ぶ。 ・介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度について学ぶ。 ・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について理解する。 ・介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を身につける。 ・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能について理解する。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての社会的役割、介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての役割の理解については、小テストにて7割以上の解答ができる。 ・介護福祉の専門職としての能力と態度についてレポートにまとめることができる。 		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 介護福祉とは「介護福祉士」のイメージについて考える	介護福祉士のイメージ。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
2.	介護の基本となる理念の理解 介護の成り立ち 社会の変化と介護福祉の歴史	「介護の基本」第1章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3.	介護の基本となる理念の理解 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景	「介護の基本」第1章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4.	介護の基本となる理念の理解 介護概念の変遷 介護の社会化	「介護の基本」第1章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5.	介護の基本となる理念の理解 尊厳を支える介護	「介護の基本」第1章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6.	介護の基本となる理念の理解 自立を支える介護	「介護の基本」第1章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7.	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割（地域・施設・在宅）	「介護の基本」第2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8.	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割（介護予防・看取り・災害）	「介護の基本」第2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9.	介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法（定義と専門性）	「介護の基本」第2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10.	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士養成カリキュラムの変遷	「介護の基本」第2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
11.	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士を支える団体の役割と活動	「介護の基本」第2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
12.	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理	「介護の基本」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13.	介護福祉士の倫理 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応	「介護の基本」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14.	日本介護福祉士会の倫理綱領	「介護の基本」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15.	まとめ 求められる介護福祉士像	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座3『介護の基本』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（20%）、小テスト（40%）、レポート（40%） 小テスト・レポートは評価、コメントを記入後返却し、フィードバックする。		
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。また、クラスルームにても質問を受け付ける。		

科 目	介護と福祉	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりについて学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりについて理解する。		
学習成果の 評価基準	到達目標の理解度は小テストを用いて評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	私たちの生活とは	生活問題について自分の考えをまとめておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
2 .	私たちの生活の理解 生活にとって大切な要素	「介護の基本」第1章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3 .	私たちの生活の理解 生活の特性	「介護の基本」第1章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4 .	介護福祉を必要とする人の理解 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	「介護の基本」第1章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5 .	介護福祉を必要とする人の理解 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし(事例発表)	「介護の基本」第1章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6 .	介護福祉を必要とする人の理解 介護福祉を必要とする障害者の暮らし	「介護の基本」第1章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7 .	介護福祉を必要とする人の理解 介護福祉を必要とする障害者の暮らし(事例発表)	「介護の基本」第1章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8 .	介護福祉を必要とする人の理解 個人の暮らしや歴史を聞く(演習)	「介護の基本」第1章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9 .	介護福祉を必要とする人の理解し 個人の暮らしや歴史を聞く(発表)	「介護の基本」第1章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10 .	「その人らしさ」と「生活ニーズ」 「その人らしさ」とその背景と介護福祉における活用	「介護の基本」第1章第3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
11 .	「その人らしさ」と「生活ニーズ」 「生活ニーズ」の理解とニーズへの支援	「介護の基本」第1章第3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
12 .	生活のしづらさの理解とその支援 日常生活から考える生活のしづらさの理解	「介護の基本」第1章第4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13 .	生活のしづらさの理解とその支援 日常生活から考える生活のしづらさへの支援	「介護の基本」第1章第4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14 .	生活のしづらさの理解とその支援	「介護の基本」第1章第4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15 .	まとめ 介護を必要とする人の生活の個別性に対応する介護福祉士の役割と多職種連携	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座4『介護の基本』中央法規 適宜プリントを配布する		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 15%、小テスト 85% 小テストについては、その都度解説し、フィードバックする。		
特記すべき 事項	担当者は、介護福祉士として実務経験5.5年を有する。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科目	介護と福祉	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護現場（地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況）においていかに対象者の生老病死と向き合い、共に生きていけるのか。仏教福祉の視点から、特に親鸞と蓮如の教えに学びながら考え、介護が必要な人そして自分自身の理解を深めそれを表現していく。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（3）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生老病死の問いの大切さを知り、視野を広げ、対象者に寄り添い考えることができる。 ・親鸞と蓮如についての基本的な理解をもち、その思想が私たちに教えることについて表現することができる。 ・実地研修を通して、地域で暮らす人々の思いを受けとめることができる。 ・以上の学びを通して、介護福祉士としての専門性を探究する姿勢を持ち続けることができる。（思考力、表現力、主体性、多様性） 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力の達成度を測るために、毎回の振り返りやまとめを実施し評価する。 ・表現力の達成度を測るために、実地研修に向けた資料準備の取り組みと成果を評価する。 ・主体性と多様性の達成度を測るために、実地研修の振り返りと授業内容の振り返りを実施し評価する。 		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	仏教福祉とは ガイダンス シラバスの確認	シラバスを読む・ガイダンスの内容を振り返る	
2.	親鸞という人 親鸞の生まれた時代	テキストを読む・授業内容を振り返る	
3.	親鸞の出家 親鸞のうた「明日ありとおもうところのあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは」	テキストを読む・授業内容を振り返る	
4.	これまでの学習内容についてのまとめ	これまでのノートを整理する・学習内容のまとめを作成する	
5.	親鸞の生涯の概略 親鸞の入滅 入滅（入涅槃）とは	テキストを読む・授業内容を振り返る	
6.	親鸞の教え（恩徳讃） 恩とは	テキストを読む・授業内容を振り返る	
7.	これまでの学習内容についてのまとめ	これまでのノートを整理する・学習内容のまとめを作成する	
8.	蓮如について	資料を読む・授業内容を振り返る	
9.	白骨の御文	資料を読む・授業内容を振り返る	
10.	これまでの学習内容についてのまとめ	これまでのノートを整理する・学習内容のまとめを作成する	
11.	実地研修に向けた準備	実地研修の準備・準備についての振り返り	
12.	実地研修に向けた準備	実地研修の準備・準備についての振り返り	
13.	実地研修	実地研修の準備・実地研修を振り返る	
14.	実地研修の振り返り	実地研修を振り返る	
15.	授業内容の振り返り	授業内容を振り返る	
教科書	『親鸞 生涯と教え』		
参考書	授業の中で紹介する。		
学習成果の評価方法	「毎回の振り返りやまとめ」（40%）、「実地研修に向けた資料準備の取り組みと成果」（30%）、「実地研修の振り返りと授業内容の振り返り」（30%）		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法も可。		

科 目	介護と福祉	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（4）に対応する。		
到達目標	介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解する。		
学習成果の評価基準	生活を支えるサービスについて、自身の生活と重ね合わせ興味を持つ。理解度は小テストを用いて評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	介護を必要とする人の生活を支える仕組み	自分が知っているサービスについてまとめておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認。	
2 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 高齢者を支えるサービスの概要	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 介護保険制度におけるサービスの種類（全体）	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 介護保険制度におけるサービスの種類（居宅・施設）	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 介護保険制度におけるサービスの種類（地域密着型）地域支援事業	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 障害者を支えるサービス概要	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 障害者総合支援法	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8 .	生活を支えるフォーマルサービス（社会的）サービス 障害者総合支援法によるサービスの体系	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9 .	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス） 公助・共助・互助・自助	「介護の基本」第2章第1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10 .	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス） フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係	「介護の基本」第2章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
11 .	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス） インフォーマルサービスの種類。提供者と支援の視点	「介護の基本」第2章第2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
12 .	地域連携 地域連携の意義と目的	「介護の基本」第2章第3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13 .	地域連携 地域連携に関わる機関	「介護の基本」第2章第3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14 .	地域連携 地域連携の実際	「介護の基本」第2章第3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15 .	まとめ インフォーマルサービスと介護保険制度・障害者総合支援法の確認	これまでの授業内容を振り返っておく	
教科書	新・介護福祉士養成講座2『社会と制度の理解』中央法規 適宜プリントを配布する。		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度 50%、小テスト 25%、授業内課題 25% 小テスト、授業内課題については、その都度解説とフィードバックを行う。		
特記すべき事項	担当者は、介護福祉士として実務経験5.5年を有する。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）		

科目	介護の基本	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	永山 寛・廣瀬泰之・井出真一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>・ I C F の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学ぶ。</p> <p>・ 「尊厳の保持」「自立支援」について、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活と照らし合わせながら学ぶ。</p> <p>本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（6）に対応する。</p>		
到達目標	<p>・ I C F の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。</p> <p>・ 「尊厳の保持」「自立支援」について、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活と照らし合わせながら理解する。</p> <p>・ 他者と円滑にコミュニケーションを図り、様々な専門職と協働することができる（協働性）。</p>		
学習成果の評価基準	<p>授業成績は、授業への取組み態度（主体性やグループワークなど）、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格（C判定以上）となる。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	自立に向けた介護 自立支援の考え方	「自立」について自分の考えを持つ 当日の配布プリント・ノートを確認する	
2.	自立に向けた介護 自立支援とエンパワメント	「介護の基本」第4章1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
3.	自立に向けた介護 自立支援と I C F	「介護の基本」第4章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
4.	自立に向けた介護 生活意欲と活動 社会参加	「介護の基本」第4章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
5.	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションとは	「介護の基本」第4章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
6.	自立支援とリハビリテーション 介護におけるリハビリテーション	「介護の基本」第4章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
7.	自立支援とリハビリテーション 障害の理解と評価	「介護の基本」第4章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
8.	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションのなかでの自立のとらえ方	「介護の基本」第4章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
9.	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションにおける介護福祉士の役割	「介護の基本」第4章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
10.	自立支援と介護予防 介護予防の概念と介護予防の種類と特徴	「介護の基本」第4章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
11.	自立支援と介護予防 自立支援と介護予防	「介護の基本」第4章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
12.	自立支援と介護予防 介護予防における介護福祉士の役割	「介護の基本」第4章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
13.	自立支援と生活支援 就労支援と介護福祉士	「介護の基本」第4章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
14.	自立支援と生活支援 家族・地域とのかかわり・福祉のまちづくり	「介護の基本」第4章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する	
15.	まとめ「自立に向けた介護福祉のあり方」	これまでの授業を振り返り、介護職の倫理性を考えておく	
教科書	新・介護福祉士養成講座3『介護の基本』中央法規		
参考書	適宜、関係資料を配布する		
学習成果の評価方法	受講態度（20%）、小テスト（40%）、授業内課題（40%） テストや課題については、授業内でフィードバックする		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所にて受け付ける		

科 目	介護の基本	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護における安全の確保やチームケア・連携、また介護職の倫理やリスクマネジメント等について学習し、介護福祉の専門職としての能力や態度を養う。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	1.介護を取り巻く環境の変化と、これからの専門職としての介護福祉士の在り方について述べるができる。 2.介護従事者の倫理及び健康管理、安全管理等含めたリスクマネジメントについて理解できる。		
学習成果の 評価基準	この科目では、課題レポートやグループワーク、ディベートを中心に授業展開する。 授業内で意見交換する際には、活発なグループワークを求めるため、予習による自己学習が必要となる。コマ毎のレディネスも積極的な受講態度の評価の一つとする。 また、相手の意見を聴き理解しようとする姿勢や、自己の考えを相手に伝えようとする姿勢・表現能力(レポート、定期試験等)を総合的に評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	介護福祉を必要とする人の理解	教科書 第1章、配布資料	
2 .	介護福祉士の倫理	教科書 第4章、配布資料	
3 .	介護福祉士の役割とその機能を支えるしくみ	教科書 第2章、配布資料	
4 .	介護サービスと介護福祉士の働く場	教科書 第2章、配布資料	
5 .	介護実践における連携、多職種の機能と役割	教科書 第4章、配布資料	
6 .	介護における安全の確保とリスクマネジメント	教科書 第3章、配布資料	
7 .	リスクマネジメント 「施設・在宅での事故」	教科書 第3章、配布資料	
8 .	リスクマネジメント 「医療現場の事故」	教科書 第3章、配布資料	
9 .	リスクマネジメント 「緊急時の対応」	教科書 第3章、配布資料	
10 .	リスクマネジメント 「緊急時の対応」	教科書 第3章、配布資料	
11 .	リスクマネジメント 「感染症対策」	教科書 第3章、配布資料	
12 .	介護従事者の健康管理の意義と目的	教科書 第5章、配布資料	
13 .	介護従事者の安全 「健康管理」	教科書 第5章、配布資料	
14 .	介護従事者の安全 「メンタルヘルス」	教科書 第5章、配布資料	
15 .	介護従事者の安全 「労働環境の整備」	教科書 第5章、配布資料	
教科書	最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	課題レポート(20%)、学習態度(30%)、定期試験(50%) その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき 事項	実務経験 看護師(11年)、保健師(3年) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の受付	授業内もしくは研究室		

科目	コミュニケーション	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	山田俊之・森永牧子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。 ・介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を習得する。 ・介護実践に必要なコミュニケーション能力を身につける。 		
学習成果の評価基準	到達目標の達成度を測るため、小テストや授業内課題でコミュニケーション能力を測り評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	介護を必要とする人とのコミュニケーションとは コミュニケーションの意義と目的	予習：「コミュニケーション」第1章1節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
2.	介護におけるコミュニケーションの対象	予習：「コミュニケーション」第1章2節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
3.	援助関係とコミュニケーション	予習：「コミュニケーション」第1章3節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
4.	コミュニケーションの基本技術 傾聴・受容・共感・コミュニケーションにおける距離	予習：「コミュニケーション」第2章1節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
5.	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	予習：「コミュニケーション」第2章2節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
6.	目的別のコミュニケーション技術 動機付け・ものの見方・意思決定の支援	予習：「コミュニケーション」第2章3節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
7.	集団におけるコミュニケーション技術	予習：「コミュニケーション」第2章4節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
8.	家族とのコミュニケーション 家族との関係づくり	予習：「コミュニケーション」第4章1節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
9.	家族とのコミュニケーション 家族への助言・指導・調整	予習：「コミュニケーション」第4章2節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
10.	家族とのコミュニケーション 家族関係と介護ストレスへの対応	予習：「コミュニケーション」第4章3節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
11.	介護におけるチームのコミュニケーション チームコミュニケーションの意義と目的	予習：「コミュニケーション」第5章1節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
12.	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談の技術	予習：「コミュニケーション」第5章2節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
13.	介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談の技術	予習：「コミュニケーション」第5章3節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
14.	介護におけるチームのコミュニケーション 会議・議事進行・説明の技術	予習：「コミュニケーション」第5章4節を読む。 復習：配布プリント・ノートの確認	
15.	まとめ 利用者や家族との信頼関係を構築できるコミュニケーション技術	地域サービスでの実践を振り返る。	
教科書	新・介護福祉士養成講座5『コミュニケーション技術』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(30%)、小テスト(30%)、授業内課題(40%)		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	コミュニケーション技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	井形美子・中村桂子・大石万里子・森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	(手話) 聴覚障がいの理解とコミュニケーション技術を学ぶ。 (点字) 点字をとおして視覚障がいの理解とコミュニケーション技術を学ぶ。 障がいを持つ子どもとのコミュニケーション技術について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	(手話) 手話によるコミュニケーションができるようにする。 (点字) 点字で五十音を学び、短文のマスあけを理解し、点字の文章で視覚障がい者とのコミュニケーション技術を理解することができる。 様々な方法を用いたコミュニケーション技術を理解することができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に対する学習成果は、小テスト、授業内課題にて評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	手話を学ぶにあたって 挨拶の手話表現	手話表現の仕方を覚え、手話の特徴を理解する	
2 .	聴覚障がいについて 指文字表現	指文字表現の仕方を覚え、耳のしくみ・聴覚障がいの特性を理解する	
3 .	コミュニケーション手段について 自己紹介シート記入	手話・指文字表現の仕方を工夫し、あらゆるコミュニケーション仕方を習得する	
4 .	聞こえない環境について 自己紹介シートでの手話表現(名前・年齢)	手話・指文字表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の生活の不便さを考察する	
5 .	聴覚障がい者の生活について(1) 自己紹介シートでの手話表現(誕生日・家族)	手話・指文字表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の生活の不便さをなくすことを学ぶ(1)	
6 .	聴覚障がい者の生活について(2) 自己紹介シートでの手話表現(住所/出身地)	手話・指文字表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の生活の不便さをなくすことを学ぶ(2)	
7 .	接し方について 自己紹介シートでの手話表現(趣味・九州大谷短大)	手話・指文字・ジェスチャー表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の接し方を心構える	
8 .	まとめ及び手話表現評価	手話・指文字・ジェスチャー表現の仕方を工夫し、発表する	
9 .	視覚障がい者の実態について 点字の成り立ち	重度視覚障害者の生活について関心をもつ	
10 .	単語を点字で書く 童謡の歌詞を点字で書く	点字盤の使い方・五十音・濁音・拗音・数字	
11 .	「点訳のしおり」の説明 相手の立場に立つことができる(2)	前回の復習	
12 .	短文を点字で書く 短文を点字で書く	前回の復習	
13 .	自分でマスあけをして点字で書く	前回の復習	
14 .	障がいを持つ子どもとのコミュニケーション技術	手話・点字の復習	
15 .	まとめ 障がいを持つ子どもとのコミュニケーション技術	これまでの授業の復習	
教科書	新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」中央法規 「点訳のしおり」社会福祉法人日本点字図書館		
参考書	(手話) 随時、必要なプリント・資料を配付する。		
学習成果の 評価方法	(手話) 授業での介護ロールプレイに積極的に参加する(1割) 聴覚・言語障がいのある人についての理解度ををはかるために授業内試験をする(6割)		
特記すべき 事項	(手話) 手話表現する際、マウスシールドを着用する 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談 の 受 付	授業後に、必要に応じ受付する		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	上野敦子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 生活技術の学習を通して、福祉と教育の視点より、基本的な知識と技術の概要を学ぶ。本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 家事の介助技法の習得を通して、現場での実践力につなげるようになる。 高齢者、障害者等の心情を共有できる幅広い人間性を持った資質・能力を身につけることができるようになる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト・レポート等到達度確認テストを実施し評価する。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	家事の意義と目的	家事の意義と目的について調べておく	
2 .	調理の支援	調理のプロセスを理解する	
3 .	調理(お茶の入れ方と和菓子)	お茶の入れ方、和菓子の作り方について復習する	
4 .	調理(卵料理と魚の扱い方)	卵、魚の調理法について復習する	
5 .	調理(粥ととろみのつけ方)	とろみのつけ方について復習する	
6 .	調理(加工食品の利用)	加工食品の利用法について復習する	
7 .	調理(電子レンジの利用)	電子レンジの調理方法について復習する	
8 .	調理(冷凍食品の利用)	冷凍食品を利用した調理方法について復習する	
9 .	調理(生活習慣病の食事)	生活習慣病の特性を知り、その調理方法について復習する	
10 .	洗濯(洗剤と洗浄実験)	洗剤の選択と洗浄過程について復習する	
11 .	洗濯(しみ抜き実験と表示)	しみの種類によるしみ取り方法について復習する	
12 .	裁縫(衣類の補修)	手縫いによる衣類の補修方法について復習する	
13 .	衣類・寝具の衛生管理(おむつの保水量実験と蒸れ)	衣類、寝具の管理方法について復習する	
14 .	高齢者・障害者の衣服とおしゃれ	高齢者、障害者の衣類の特徴について復習する	
15 .	掃除・ゴミ捨て・買い物	清掃方法、買い物について復習する	
教科書	最新・介護福祉養成講座6「生活支援技術」		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(10%) 授業内発表(10%) 小テスト(20%) 授業内課題(20%) レポート(40%) 小テスト、レポートについては、コメントにてフィードバックします。		
特記すべき事項	休んだ場合は、その授業内容を必ず自己学習しておく。 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業終了後に、質問・相談等受け付けます。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための移動・移乗の介護について学ぶ。 ・移動・移乗の介助における介護ロボットを含め祉用具を活用する意義その目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた移乗・移動の基礎的な知識に基づいた技術を実践することができる。 ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の介助に関する基礎的な知識については小テストにて評価。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた移動・移乗の介助を考え、実践することができる。 ・自立に向けた移動・移乗の介助の根拠について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	自立した移動とは 移動の心理的・身体的・社会・文化的意義と目的	自分自身の移動・移乗について関心をもつ。授業後、プリント・ノートを確認する。	
2 .	移動・移乗に関するアセスメント ICFの視点からの移動・移乗に関するアセスメント	「生活支援技術」第3章を1節読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3 .	介護技術の基本 ボディメカニクスの習得	「生活支援技術」第3章1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4 .	自立に向けた移動の介助 安楽な体位とベット上での移動(体位変換)	「生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5 .	自立に向けた移動の介助 歩行介助(杖・シルバーカー・歩行器)	「生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6 .	自立に向けた移動の介助 車いすへの移乗(ベット 車いす)	「生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7 .	自立に向けた移動の介助 車いすでの移動(平地・坂道・不整地・段差)	「生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8 .	自立に向けた移動の介助 車いすでの外出介助	公園へ外出計画を立てる。 実践をふりかえる。	
9 .	自立に向けた移動の介助 ノーリフティング介助・ストレッチャー・リフター・スライディングシート・スライディングボードの介助	「生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10 .	対象者の状態に応じた介助 運動機能が低下している人の移動・移乗介助の留意点や工夫	運動機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
11 .	対象者の状態に応じた介助 認知機能が低下した人の移動・移乗介助の留意点や工夫	認知機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
12 .	対象者の状態に応じた介助 視覚・聴覚に障害をもつ人の移動・移乗介助の留意点や工夫	視覚障害について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
13 .	対象者の状態に応じた介助 疾患・内部障害がある人の移動・移乗介助の留意点と工夫	疾患・内部障害について調べておく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
14 .	移動・移乗の介助における他職種との連携	「生活支援技術」第3章3節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
15 .	まとめ 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの観点から、その人らしい生活を支える移動・移乗介助を考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・8『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト(20%)、実技演習(40%)、レポート作成(20%)、授業態度(20%) レポートはフィードバック後、返却する。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨むこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームでも質問を受け付ける。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の介助に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための食事の介助の介護について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた食事介助の基礎的な知識に基づき技術を実践することができる ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の介助に関する基礎的な知識については小テストにて評価。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた食事介助を考え、実践することができる。 ・自立に向けた食事の介助の根拠について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	食事の介助について学ぶ意義と食事の心理的・身体的・社会文化的意義と目的	自分の食生活について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
2 .	食事の意義と介護者の役割 食事の意義と目的 介護を必要とする人にとってのより良い食生活と介護者の役割	「生活支援技術」第2章を1節読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3 .	自立した食事に関するアセスメント I C F の視点からのアセスメントと食事の一連の流れ	「生活支援技術」第2章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4 .	自立に向けた食事の介助 栄養状態の保持推進、水分摂取量と食行動のメカニズム	「生活支援技術」第2章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5 .	自立に向けた食事の介助 おいしく食べるための献立、調理の工夫、環境面への配慮	「生活支援技術」第2章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6 .	自立に向けた食事の介助 咀嚼、嚥下困難について学び、誤嚥の予防と対策	「生活支援技術」第2章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
7 .	自立に向けた食事の介助 介護の基本原則にのっとった食事の介護	「生活支援技術」第2章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
8 .	自立に向けた食事の介護 自分で食事ができる人の食事介助 座位での食事介助	「生活支援技術」第2章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
9 .	自立に向けた食事の介護 ベッド上で行う食事の介助	「生活支援技術」第2章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
10 .	自立に向けた食事の介助 運動機能・摂食機能「が低下している人の食事介助の留意点や工夫	運動機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
11 .	自立に向けた食事の介助 認知症高齢者の食事介助の留意点や工夫	認知機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
12 .	自立に向けた食事の介助 視覚に障害をもつ人が安全に食事をするための留意点や工夫	視覚障害について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
13 .	自立に向けた食事の介助 健康状態に応じた食事介助と福祉用具の活用経口摂取の継続の意義と工夫	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
14 .	食事介助における他職種との連携	「生活支援技術」第2章3節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
15 .	まとめ 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの観点から、その人らしい生活を支える食事介助を考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・7『生活支援技術』・8『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト(20%)、実技演習(40%)、レポート作成(20%)、授業態度(20%) レポートはフィードバック後、返却する。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨むこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付ける。		

科目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・後藤直暁・日本セラピューティック・ケア	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者や障がいのある人の暮らしの実際から介護を必要とする人の生活を様々な視点から支援する方法について学び、生活の豊かさや心身の活性化のための支援を学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす人々の思いを受けとめ、地域の課題を共有することができる。 ・人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障がいのある人介護を必要とする人の生活を様々な視点から支援する方法について理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援を展開することができる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の暮らしの実際や障がいのある人介護を必要とする人の生活の様々な視点からの理解は小テストにて評価する。 ・生活の豊かさや心身の活性化のための技術(折り紙・インファントセラピー)を実践することができる。 ・人間の多様性を理解し、生活の豊かさについてレポートすることができる。 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 生活を様々な視点から支える意義	自分の生活の楽しみについて考える。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
2.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性」 高齢者の生活史を学び、価値観、生活感	身近な高齢者と関わりを持つ。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性」 高齢者の暮らしの実際	高齢者に昔の話をきく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性」 障がいのある人の生活ニーズ	障がいについて復習しておく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性」 障がいのある人の生活ニーズ	高齢者の社会的活動について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6.	高齢者のアクティビティと余暇活動 高齢者の余暇活動	身近な高齢者の余暇活動について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
7.	高齢者のアクティビティと余暇活動 高齢者のアクティビティ活動	身近な高齢者のアクティビティについて関心を持つ。授業後配布プリントを確認する。	
8.	高齢者のアクティビティと余暇活動 高齢者の生活を豊かにする活動	身近な高齢者の生活の豊かさについて関心を持つ。授業後配布プリントを確認する。	
9.	高齢者のアクティビティと余暇活動 高齢者地域サービスでの実践	地域サービスの計画を立てる。授業後プリントを確認する。	
10.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動 障がいを持つ人の社会的活動	身近な障害を持つ人の社会的活動について関心を持つ。授業後プリントを確認する。	
11.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動 障がいを持つ人の余暇活動	身近な障害を持つ人の余暇活動について関心を持つ。授業後プリントを確認する。	
12.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動 障がいを持つ人のアクティビティ活動	身近な障害を持つ人のアクティビティについて関心を持つ。授業後プリントを確認する。	
13.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動 障がいを持つ人の生活を豊かにする活動	身近な障害を持つ人の生活の豊かさについて関心を持つ。授業後プリントを確認する。	
14.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動 障がいを持つ人との交流をとおして実践する	障害を持つ人との交流へ向けて計画を立てる。授業後プリントを確認する。	
15.	まとめ 生活を豊かにする支援	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	インファントセラピスト(s) テキスト・プリント		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト(20%)、実技演習(40%)、レポート作成(20%)、授業態度(20%) レポートはフィードバック後、返却する。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨むこと。 インファントセラピスト(S)の資格取得が可能。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接の聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにて質問を受け付ける。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・身じたくに関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための身じたくの介護について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（2）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた身じたくの基礎的な知識に基づいた技術を実践することができる。 ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・身じたくの介助に関する基礎的な知識については小テストにて評価。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた身じたくの介助を考え、実践することができる。 ・自立に向けた身じたくの介助の根拠について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 生活の中の「身じたく」について理解する	自分の衣生活、装いについて関心をもつ。授業後配布プリントを確認する。	
2 .	生活習慣としての身じたくの意義と目的（心理的・身体的・社会・文化的視点から）	「生活支援技術」第1章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3 .	身じたくに関するアセスメント ICFの視点からのアセスメントと身じたくの一連の流れ	「生活支援技術」第1章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4 .	自立に向けた身じたくの介護 洗顔・整容の介助	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5 .	自立に向けた身じたくの介護 ひげの手入れ・爪の手入れ・耳の清潔・化粧の介助	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6 .	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケアの意義と目的	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
7 .	自立に向けた身じたくの介護 根拠に基づく口腔ケアの介助の実際	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
8 .	自立に向けた身じたくの介護 衣服のもつ役割と衣服の着脱の意義	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
9 .	自立に向けた身じたくの介護 利用者の状況に応じた衣服の着脱の介助	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
10 .	自立に向けた身じたくの介護 根拠に基づく衣類の着脱の実際	「生活支援技術」第1章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
11 .	対象者の状態に応じた介助 運動機能が低下している人の身じたくの介助の留意点や工夫	運動機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
12 .	対象者の状態に応じた介助 認知機能が低下した人の身じたくの介助の留意点や工夫	認知機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
13 .	対象者の状態に応じた介助 疾患・内部障害がある人の身じたくの介助の留意点と工夫	疾患・内部障害について調べておく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
14 .	身じたくの介助における他職種との連携	「生活支援技術」第1章3節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
15 .	まとめ 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの観点から、その人らしい生活を支える身じたくの介助を考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・7『生活支援技術』・8『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト（20％）、実技演習（40％）、レポート作成（20％）、授業態度（20％） レポートはフィードバック後、返却する。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨むこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームでも質問を受け付ける		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	上野敦子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・生活及び生活支援などについて基本的な知識を学ぶ。また、高齢者や障害者にとって安全で快適な生活空間について学ぶ。本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(8)に対応する。		
到達目標	・家庭生活の意義や経営、管理などを学ぶことで利用者の生活歴や生活環境に配慮した支援力の向上を目指すことができるようになる。		
学習成果の評価基準	・到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト・レポート等到達度確認テストを実施し評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	住居環境整備(意義と目的)	住生活環境整備の意義について復習する	
2 .	住居環境整備(生活空間と介護・環境問題・居住環境のアセスメント)	住生活環境における全般について復習する	
3 .	安心して快適な生活の場づくり(空間構成)	住宅空間の配置や各室の特性について復習する	
4 .	安心して快適な生活の場づくり(空間構成)	住宅空間の配置や各室の特性について復習する	
5 .	安心して快適な生活の場づくり(住まいの管理・安全性の確保)	住環境をめぐる安全性について復習する	
6 .	安心して快適な生活の場づくり(集団生活の場)	集団生活における住環境の工夫等について復習する	
7 .	室内環境の整備(掃除、ゴミ処理、リサイクル)	雄時、ゴミの分別、リサイクルについて復習する	
8 .	家庭生活とその変遷	家庭生活とその変遷について復習する	
9 .	生活設計(家計管理)	家庭生活の中での管理について復習する	
10 .	家庭経済	経済の循環について復習する	
11 .	消費者問題(悪徳商法)	消費者問題、悪徳商法について復習する	
12 .	高齢者・障害のある人を取り巻く経済生活	高齢者、障害者の経済生活について復習する	
13 .	現代社会の問題	現在社会の問題について復習する	
14 .	リサイクル(エコバック製作)	リサイクルについて復習する	
15 .	まとめ	今までの学びを復習する	
教科書	最新・介護福祉養成講座6「生活支援技術」		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(10%) 授業内発表(10%) 小テスト(20%) 授業内課題(20%) レポート(60%) 小テスト、レポートについては、コメントにてフィードバックします。		
特記すべき事項	休んだ場合は、その授業内容を必ず自己学習しておく。 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業終了後に、質問・相談等受け付けます。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための排泄の介護について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（2）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた排泄の基礎的な知識に基づいた技術を実践することができる。 ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗の介助に関する基礎的な知識については小テストにて評価。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた排泄の介助を考え、実践することができる。 ・自立に向けた排泄の介助の根拠について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 自立した排泄について理解する	自分の排泄について関心を持つ。 授業後配布プリント、ノートを確認する。	
2 .	自立した排泄の意義と目的 排泄の身体的、精神的、社会・文化的な側面からの排泄の理解	「生活支援技術」第4章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3 .	自立した排泄の意義と目的 排泄のメカニズム・排泄動作	「生活支援技術」第4章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4 .	排泄に関するアセスメント ICFの視点からの排泄に関するアセスメントと排泄の一連の流れ	「生活支援技術」第4章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5 .	自立に向けた排泄の介助 根拠に基づく排泄方法の選択	「生活支援技術」第4章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6 .	自立に向けた排泄の介助 根拠に基づくトイレ・ポータブルトイレでの介助	「生活支援技術」第4章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
7 .	自立に向けた排泄の介助 根拠に基づく尿器・差し込み便器を使用した介護	「生活支援技術」第4章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
8 .	自立に向けた排泄の介助 尊厳の保持・自立支援、生活の豊かさ観点到留意したオムツの介護	「生活支援技術」第4章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
9 .	自立に向けた排泄の介助 頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁派の対応	「生活支援技術」第4章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
10 .	自立に向けた排泄の介助 排泄に関するさまざまな介助 ストーマ・カテーテル等	「生活支援技術」第4章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
11 .	対象者の状態に応じた介助 運動機能が低下している人の排泄介助の留意点や工夫	運動機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
12 .	対象者の状態に応じた介助 認知機能が低下した人の排泄介助の留意点や工夫	認知機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
13 .	対象者の状態に応じた介助 疾患・内部障害がある人の排泄介助の留意点と工夫	疾患・内部障害について調べておく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
14 .	排泄介助における他職種との連携	「生活支援技術」第4章3節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
15 .	まとめ 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの観点から、その人らしい生活を支える排泄の介助を考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・7『生活支援技術』・8『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト（20％）、実技演習（40％）、レポート作成（20％）、授業態度（20％） レポートはフィードバック後、返却する。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨むこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームでも質問を受け付けます。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔の保持に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための入浴・清潔保持の介護について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた入浴・清潔保持の基礎的な知識に基づいた技術を実践することができる。 ・実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・清潔の保持の介助に関する基礎的な知識については小テストにて評価。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた入浴・清潔保持の介助を考え、実践することができる。 ・自立に向けた入浴・清潔保持の介助の根拠について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 自立に向けた「入浴・清潔保持」を学ぶ意義	自分自身の入浴の清潔保持について関心をもつ。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
2.	自立した入浴・清潔保持の意義と目的 入浴の身体的、精神的、社会・文化的な側面からの入浴・清潔保持	「生生活支援技術」第3章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3.	自立した入浴・清潔保持の意義と目的 介護を必要とする人にとっての安全で快適な入浴・清潔保持	「生生活支援技術」第3章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4.	入浴・清潔保持清潔保持に関するアセスメント I C Fの視点からの入浴・清潔保持に関するアセスメントと入浴の一連の流れ	「生生活支援技術」第3章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5.	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 根拠に基づく入浴の可否と清潔保持の方法の選択	「生生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6.	自立に向けた入浴、清潔保持の介護 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの留意点を理解した一般浴・シャワー浴の介護	「生生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
7.	自立に向けた入浴、清潔保持の介護 安全、プライバシーの保護の留意点を理解したシャワー浴の介護	「生生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
8.	自立に向けた入浴、清潔保持の介護 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの留意点を理解した機械浴の介護	「生生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
9.	自立に向けた入浴、清潔保持の介護 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの留意点を理解した全身清拭、陰部洗浄・洗髪の介護	「生生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
10.	自立に向けた入浴、清潔保持の介護 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの留意点を理解した足浴、手浴の介護	「生生活支援技術」第3章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
11.	対象者の状態に応じた介助 運動機能が低下している人の入浴・清潔保持の介助の留意点や工夫	運動機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
12.	対象者の状態に応じた介助 認知機能が低下した人の入浴・清潔保持の介助の留意点や工夫	認知機能の低下について調べておく。「生活支援技術」参考。授業後配布プリントを確認する。	
13.	対象者の状態に応じた介助 疾患・内部障害がある人の入浴・清潔保持の介助の留意点と工夫	疾患・内部障害について調べておく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
14.	入浴・清潔保持の介助における他職種との連携	「生活支援技術」第3章3節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
15.	まとめ 尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの観点から、その人らしい生活を支える入浴・清潔保持の介助を考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・7『生活支援技術』・8『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト(20%)、実技演習(40%)、レポート作成(20%)、授業態度(20%) レポートはフィードバック後、返却する。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨むこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームでも質問を受け付ける。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。 ・対象者の障害に応じた能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を学ぶ。 ・生活支援の中で起こりやすい事故やその予防、多職種との連携、応急手当の方法について学ぶ。 ・災害時の支援者のあるべき姿と生活支援の方法について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉用具を活用する意義や目的について理解し、対象者に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。 ・対象者の障害に応じた能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を理解する。 ・生活支援の中で起こりやすい事故やその予防、多職種との連携について理解し、応急手当の方法について習得する。 ・災害時の支援者のあるべき姿と生活支援の方法について理解する。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト・レポート等到達度確認テストを実施し評価する。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	福祉用具活用の意義と目的 社会参加、外出機会の拡大、快適性効率性、介護者負担の軽減	身の周りの福祉用具についてまとめておく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
2 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 自己実現と福祉用具	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 福祉用具が活用できるための環境整備	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 個人と用具のフィッティング、モニタリング	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5 .	自立に向けた福祉用具活用の視点 福祉機器利用時のリスクとリスクマネジメント	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 福祉用具の種類と制度の理解 介護保険、障害者総合支援法によるサービス	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
7 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 コミュニケーション支援機器の活用	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
8 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 移動支援機器の活用	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
9 .	適切な福祉用具の選択の知識と留意点 その他福祉用具・介護ロボットなど	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
10 .	今後の福祉機器とICTの広がり ICTの理解と活用、展望	「生活支援技術」第4章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
11 .	応急手当の知識と技術 応急手当とは(想定される事故と予防の視点、目的)	「生活支援技術」第6章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
12 .	応急手当の知識と技術 応急手当の実際(外傷、骨折、窒息、熱傷)	「生活支援技術」第6章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
13 .	災害時における生活支援 生活支援の必然性とその重要性	「生活支援技術」第7章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14 .	災害時における生活支援 現場の状況把握と生活支援	「生活支援技術」第7章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15 .	災害時における生活支援 介護福祉士としての支援のあり方	「生活支援技術」第7章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(15%)、授業内課題(15%)、定期試験(60%)、授業内発表(10%) 各課題については授業内で評価、コメントしフィードバックする		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問は授業終了後、研究室にて受け付ける。		

科 目	生活支援技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について学ぶ。 経過に沿った支援やチームケアの実践について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(3)に対応する。 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期 		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解する 経過に沿った支援やチームケアの実践について理解する。 高い倫理感をもち、対象者を一人の生活者として寄り添い考えることができる。 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 休息・睡眠に関する基礎的知識については小テストにて評価する。 健康を保持するための休息や睡眠の重要性について理解し発表することができる。 人生の最終段階にある人と家族をケアするための支援について、根拠を示しレポートにまとめることができる。 高い倫理感をもち、対象者を一人の生活者として寄り添うことを発表することができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 休息・睡眠の心理的・身体的・社会・文化的意義と目的	自分の休息・睡眠について関心を持つ。	
2 .	休息・睡眠の効果 休息睡眠のメカニズム	「生生活支援技術」第5章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
3 .	休息・睡眠に関する利用者のアセスメント ICFの視点にもとづくアセスメントと快適な睡眠の一連の流れ	「生生活支援技術」第5章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
4 .	安眠を阻害する要因と支援	「生生活支援技術」第5章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
5 .	自立に向けた休息・睡眠の介護 根拠に基づく環境整備と睡眠障害への支援	「生生活支援技術」第5章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
6 .	健康を保持するための休息・睡眠の介護 介護ロボット等の福祉用具の活用	「生活支援技術」第4章1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7 .	心地よい睡眠のための他職種の役割と協働 他職種協働における介護福祉士の役割	「生生活支援技術」第5章3節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
8 .	人生の最終段階の意義と介護の役割 人生の最終段階のとらえ方	「生生活支援技術」第6章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
9 .	人生の最終段階の意義と介護の役割 人生の最終段階におけるケアの意味	「生生活支援技術」第6章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
10 .	人生の最終段階の意義と介護の役割 人生の最終段階におけるアセスメントの視点	「生生活支援技術」第6章1節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
11 .	人生の最終段階における介護 死をむかえる人の介護	「生生活支援技術」第6章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
12 .	人生の最終段階における介護 死をむかえた人のケア	「生生活支援技術」第6章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
13 .	人生の最終段階における介護 家族への支援、グリーフケア	「生生活支援技術」第6章2節を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
14 .	人生の最終段階における他職種との連携 医療等他職種の連携の仕方と介護福祉士の役割	「生生活支援技術」第6章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。	
15 .	まとめ生きることを支える終末期ケア 人間の生と死に関わる介護職の役割について考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座6『生活支援技術』・7『生活支援技術』・8『生活支援技術』		
参考書			
学習成果の評価方法	小テスト(20%)、グループワーク(40%)、レポート作成(20%)、授業態度(20%) レポートはフィードバック後、返却する。グループワークについては授業内で評価・コメントをフィードバックする。		
特記すべき事項	レポートの提出期限を守ること。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームでも質問を受け付ける。		

科目	介護過程	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を学ぶ。 ・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解し介護実践上の課題を創造的に解決することができる。 ・本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を身につける。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程を学ぶ意義と目的について理解し、レポートにおいてまとめることができる。 ・利用者のニーズを理解し、介護過程の様式にまとめることができる。 ・介護過程の展開から、「利用者理解」についてまとめ協働して発表することができる。 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	介護過程とは何か自分たちの身近な問題を事例として理解する	自分の生活において目標について考える。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
2.	介護過程の意義と目的 介護過程を学ぶ意義を学び、介護過程の展開の意味を考える	「介護過程」第1章1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3.	介護過程の意義と目的 介護過程の全体像	「介護過程」第1章1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4.	介護過程の意義と目的 介護過程の展開とICFの考え方	「介護過程」第1章1節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5.	生活支援における介護過程の必要性 生活支援における介護過程の意義	「介護過程」第1章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6.	生活支援における介護過程の必要性 事例検討の方法と事例研究の意義	「介護過程」第1章2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7.	介護過程の理解 介護過程の展開 介護過程のプロセス	「介護過程」第2章1節2節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8.	介護過程の理解 「アセスメント(情報収集)」情報収集の意義	「介護過程」第2章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9.	介護過程の理解 「アセスメント(情報収集)」ICFモデルを活用した情報収集の方法	「介護過程」第2章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10.	介護過程の理解 「アセスメント(解釈・関連付け・統合化)」アセスメントの3つの視点	「介護過程」第2章3節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
11.	介護過程の理解 「アセスメント(解釈・関連付け・統合化)」利用者の生活像の組み立てとイメージ	「介護過程」第2章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
12.	介護過程の理解 「アセスメント(解釈・関連付け・統合化)情報の解釈	「介護過程」第2章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13.	介護過程の理解 「アセスメント(解釈・関連付け・統合化・課題の明確化)」情報の関連付け	「介護過程」第2章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14.	介護過程の理解 「アセスメント(解釈・関連付け・統合化・課題の明確化)」情報の統合化	「介護過程」第2章4節を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15.	介護過程の理解 「アセスメント(解釈・関連付け・統合化・課題の明確化)」生活課題の明確化	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	レポート(30%)、介護過程様式(30%)、グループワーク参加(30%)、受講態度(10%)で総合的に評価する。レポートは評価、フィードバック後に返却する。		
特記すべき事項	レポート・介護過程様式等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付ける。		

科 目	介護過程	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	葉山和幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	利用者の特性に応じた介護過程の展開について学ぶ 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	利用者の特性を理解しICFに基づいた介護過程が展開できる。		
学習成果の 評価基準	利用者の特性の理解については、授業内課題(発表)にて評価する。 ICFに基づいた介護過程の展開については小テストにて評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 介護過程とは	学習目標の確認	
2 .	『関心』をもつとは	人に関心を寄せる、 人に関心を寄せられるについて	
3 .	暮らしについて	あなたの暮らし、私の暮らしにつ いての相違点を知る	
4 .	暮らしについて 時代の違い、年代別の暮らし (年表作成) 昭和初期～	時代背景・年代別の暮らしにつ いて調べる	
5 .	暮らしについて 時代の違い、年代別の暮らし (年表作成)	時代背景の影響から・年代別のく らしが成り立つことを知る	
6 .	年代別の青春時代 (年表作成)	時代背景を調べる	
7 .	暮らしについて 時代の違い、年代別の暮らし (年表作成)	時代別の暮らしについて調べる	
8 .	自己理解・他者理解 価値観の違い	自分と他者を観察する	
9 .	高齢者の生活	高齢社会の現状、在宅生活につ いて理解する	
10 .	高齢者の生活	高齢者の生活を支える制度と社会 資源について理解する	
11 .	障害を持つ人の生活	障害者をとりまく社会の現状、在 宅での生活を理解する	
12 .	障害を持つ人の生活	障害を持つ人の生活課題につ いて理解する	
13 .	生活支援の考え方と必要性・関連図の書き方	事例をもとに生活支援の考え方と 関連図を描いてみる	
14 .	プロセスレコード	プロセスレコードを通し、自分自 身を振り返る	
15 .	まとめ及び評価	最終評価とする	
教科書	新・介護福祉士養成講座 「介護過程」 中央法規福祉養成講座		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度(10%) 小テスト(30%) 授業内課題(50%) 小テスト、授業内課題については授業内にてフィードバックします。		
特記すべき 事項	介護福祉士(7年) 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付	授業後、学修支援室にて受け付けます。		

科 目	介護過程	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護過程における、「情報収集」「アセスメント」「計画立案」「実施」「評価」という一連のプロセスを学習し、介護過程を展開する能力を身につける。介護実習における自己の介護実践を振り返ることで、介護過程を客観的に評価するという作業を展開する。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（4）に対応する。		
到達目標	1.事例を通して、介護過程の展開のプロセスや方法が理解できる。 2.自己の介護実践を振り返り、客観的な実践の評価ができる。 3.介護実践報告書を作成できる。		
学習成果の評価基準	報告書完成に向け、ゴールへの見通しを立て、時間・スケジュールの管理ができたか。 自己学習に取り組む姿勢。 介護実践について、客観的な視点で考察し、論じているか。 事例展開および結果について、課題を見いだしているか。 文章表現、テーマと報告書内容に相違がないか。 このような観点から評価する。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	介護実践の振り返り	介護過程の展開についての振り返り	
2 .	オリエンテーション 介護実践報告書作成に向けて テーマ作成 参考資料・文献検索	配布資料	
3 .	テーマ作成 参考資料・文献検索 報告書の構成を考える	報告書作成に向けた自己学習	
4 .	介護過程の展開 情報収集についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
5 .	介護過程の展開 アセスメントについての考察	報告書作成に向けた自己学習	
6 .	介護過程の展開 アセスメントについての考察	報告書作成に向けた自己学習	
7 .	介護過程の展開 アセスメントについての考察	報告書作成に向けた自己学習	
8 .	介護過程の展開 課題の抽出についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
9 .	介護過程の展開 計画立案についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
10 .	介護過程の展開 実施の結果についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
11 .	介護過程の展開 実施の結果についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
12 .	介護過程の展開における評価	報告書作成に向けた自己学習	
13 .	介護過程の展開における評価	報告書作成に向けた自己学習	
14 .	介護過程の展開における利用者理解についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
15 .	介護過程の展開における利用者理解についての考察	報告書作成に向けた自己学習	
教科書	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	学習態度（40%）、報告書内容（60%） 毎回、教員より個別指導を実施する。		
特記すべき事項	実務経験 看護師（11年）、保健師（3年） 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	介護過程	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	既習学習である「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」領域の知識と技術を統合し、介護過程を展開する。一連のプロセスを通し、対象の個別性を捉え、身体面・精神面・社会面等、様々な角度から配慮し介護を考えることのできる思考過程を養う。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(7)に対応する。		
到達目標	1. 介護過程の意義と目的を理解し、対象の特性に応じた介護過程の展開ができる。 2. 介護過程の展開を通して、自身の実践した介護を振り返り、よりよい介護の追求ができる。 3. 介護実践報告発表に向け、プレゼンの準備ができる。		
学習成果の評価基準	プレゼン資料の作成に向け、ゴールへの見通しを立て、時間・スケジュール管理ができたか。 自己学習に取り組む姿勢。 人が見て分かりやすい、報告書の全体像が伝わるような資料の工夫ができているか。 他者の報告書やプレゼンも含めた題材から、介護に対する自分の考えを述べているか。 報告書作成から発表資料作成に至る過程の自己課題を見いだせているか。このような観点から評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 介護実践報告書発表に向けて	報告書の準備	
2.	介護実践報告書発表資料作成	パワーポイントの構想を考える	
3.	介護実践報告書発表資料作成	パワーポイント完成に向けた自己学習	
4.	介護実践報告書発表資料作成	パワーポイント完成に向けた自己学習	
5.	介護実践報告書発表資料作成	パワーポイント完成に向けた自己学習	
6.	介護実践報告書発表資料作成	パワーポイント完成に向けた自己学習	
7.	介護実践報告書発表資料作成	パワーポイント完成に向けた自己学習	
8.	プレゼン原稿作成	発表の構想を考える	
9.	プレゼン原稿作成	プレゼン原稿作成に向けた自己学習	
10.	プレゼン原稿作成	プレゼン原稿作成に向けた自己学習	
11.	プレゼン練習	プレゼンの準備	
12.	プレゼン練習	プレゼンの準備	
13.	プレゼン練習	プレゼンの準備	
14.	報告書発表の準備	他者の発表レポートを読み込み、ディスカッションの準備	
15.	ディスカッション 介護実践を科学的な視点で論じるためには	ディスカッションの準備	
教科書	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	学習態度(40%)、発表資料内容(60%) 毎回、教員より個別指導を実施する。		
特記すべき事項	実務経験 看護師(11年)、保健師(3年) 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	介護過程	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・宮本光成・加藤裕幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の事例を通じて、本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析、根拠に基づく介護実践をともなう課題解決を考える。 ・他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の実践的な介護過程の展開ができる実践力を養う。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（4）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の事例を通じて、本人の望む生活の実現に向けて生活課題の分析、根拠に基づき介護実践上の課題を創造的に解決することができる。 ・介護福祉士の視点から、本人の望む生活を実現に向けて介護過程の実際の展開ができる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの事例について、介護過程実践について発表し共有することができる。 ・自立に向けた介護過程の実践について介護福祉士の専門性をレポートすることができる。 		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション授業の方法、目標の確認	実習時の記録をふりかえっておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
2.	さまざまな場所で生活する利用者の介護過程の展開	事例Aを読んでくる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3.	さまざまな場所で生活する利用者の介護過程の展開	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4.	さまざまな場所で生活する利用者の介護過程の展開	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5.	さまざまな場所で生活する利用者の介護過程の展開	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6.	さまざまな場所で生活する利用者の介護過程の展開	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7.	利用者の生活と介護過程の展開におけるチームアプローチ	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8.	認知症高齢者の介護過程の展開	事例Bを読んでくる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9.	認知症高齢者の介護過程の展開	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10.	認知症高齢や介護過程の展開におけるチームアプローチ	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
11.	在宅で生活する高齢者の介護過程の展開	事例Cを読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
12.	在宅で生活する高齢者の介護過程の展開	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13.	在宅で生活する高齢者の介護過程の展開におけるチームアプローチ	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14.	事例研究 介護過程実践報告	レジュメの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15.	まとめ介護過程実践報告会振り返り	パワーポイントの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座9『介護過程』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（10%）、レポート（20%）、授業内発表（40%）、実践報告会レジュメ・パワーポイント（30%）で総合的に評価する。レポートは評価、フィードバック後に返却する。授業内での評価は、コメントにてフィードバックバックする。		
特記すべき事項	レポート・実践報告会レジュメ・パワーポイント等の提出期限を守る。担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付ける。		

科目	介護総合演習	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、学内で得た基本的な知識、技術を、統合し実践するための具体的な介護実践について学ぶ。 ・事前オリエンテーションや事後指導において、施設の理解や学内で学んだ知識、技術から実践への展開について学ぶ。 ・地域について関心をもちおたにカフェ・地域デイサービスに参加する。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（5）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し地域の課題について理解し地域、社会に貢献することができる。 ・介護実習の意義と目的を理解し、実習の目標や課題を明確にし介護実習に臨むことができる。 ・介護実習で体験したことを多角的に捉え直し、他者に伝えることができる。地域の課題について理解し地域、社会に貢献することができる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・介護実習の意義と目的を理解し、実習の目標や課題を明確にして目標確認シートを作成することができる。 ・実習の体験をグループワークに参加し協働して表現することができる。 ・「地域の課題」についてレポートにおいてまとめることができる。 		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	介護実習の意義と目的	介護実習のマニュアルP1を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
2.	利用者の個別性の理解	明治、大正、昭和の時代の背景や歴史について調べておく。授業後プリントを確認する。	
3.	介護活動の場と介護の特性多様な介護ニーズに対する介護サービスの理解	介護施設の種類について調べておく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。	
4.	介護保険入所施設(高齢者施設)、障がい者施設の法的根拠、特徴	「介護総合演習・介護実習」を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5.	訪問介護事業所、通所施設等の在宅を支援する事業所の法的根拠、特徴	「介護総合演習・介護実習」を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6.	小規模多機能施設、グループホーム等の地域密着型の事業所の法的根拠、特徴	「介護総合演習・介護実習」を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7.	介護実習の記録記録の意義と目的	介護実習のマニュアルP.4-13テキストP.46-66。授業後プリントを確認する。	
8.	介護実習 - 1, 2オリエンテーション ねらいと目的	介護実習のマニュアル資料。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9.	介護実習 - 1, 2オリエンテーション 概要と打ち合わせ	介護実習のマニュアル、配布資料授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。料。	
10.	実習事後指導 介護実習 - 1. 2実習報告会	実習中の記録、グループワークの資料をまとめておく。授業後プリントを確認する。	
11.	地域における生活支援の実態資源や文化、歴史を学び地域について知る	地域についての記録を整理しておく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。	
12.	地域における生活支援の実態や資源文化を考え「おたにカフェ」を企画・運営する	おたにカフェの記録の整理。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13.	介護実習 - 3オリエンテーション	介護実習のマニュアルを確認しておく。授業後配布プリント・ノートを確認する。	
14.	介護実習 - 3実習報告会	実習中の記録を整理しておく。授業後グループワークのまとめ資料を確認する。	
15.	まとめ 実習をととして自己の学習課題を明確にする	実習・おたにカフェでの学びを振り返っておく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」 中央法規 「専攻科介護実習マニュアル」		
参考書			
学習成果の評価方法	レポート提出（50%）、グループワーク参加（40%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。レポートは評価、コメントを記入フィードバックしたうえで返却します。		
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守のこと。担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームでも質問を受け付けます。		

科 目	介護総合演習	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の実践を通じて、介護福祉士の役割と、介護観を形成し、自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解する。 ・介護過程の実践と事後指導により、介護過程の重要性と、質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解し、介護福祉士の専門性について学ぶ。 ・地域における介護福祉士の役割を理解し、専門職としての態度を養う。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（8）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす人々の思いを受けとめ、介護福祉士の立場から地域の課題を共有することができる。 ・介護過程の実践と評価を通じて、介護福祉士に求められる知識、技術を包括的に整理し、理解することができるとともに、理論的に思考することができ、自分の考えを説明し・表現することができる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・実習報告会において実践をふまえ、介護福祉士に求められるものをグループでまとめ発表することができる。 ・「地域における介護福祉士の役割」を理解しレポートにまとめることができる。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	地域における生活支援の実践 介護福祉士の役割について理解する	地域の特色をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
2 .	地域における生活支援の実践 地域のニーズを考えた「おたにカフェ」の運営	地域のニーズを考える。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
3 .	介護実習 - 1 オリエンテーション 実習のねらいと目的を理解し実習計画を立てる	実習マニュアルを確認する。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
4 .	介護実習 - 1 実習事後指導 実習を振り返り、まとめる	実習記録等をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
5 .	介護実習 - 1 実習報告会	レジュメの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
6 .	介護過程の実践 介護実習で介護過程の展開を行う意義や目的を理解する	介護過程の復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
7 .	介護過程の実践 情報収集、アセスメント、立案、実施、評価	介護過程の復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
8 .	介護過程の実践 介護実践の研究の意義と目的・方法・倫理的配慮	介護過程の復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
9 .	介護実習 - 2 オリエンテーション 実習のねらいと目的を理解し実習計画を立てる	実習マニュアルの確認。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
10 .	介護実習 - 2 実習事後指導 実習を介護実践を科学的な根拠をもとに振り返る	実習記録等をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
11 .	介護実習 - 2 介護実践の研究 介護実践を実践研究としてまとめる	実習記録等をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
12 .	介護実習 - 2 介護実践の研究 介護実践を実践研究としてまとめる	実習記録等をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
13 .	介護実習 - 2 介護実践の研究 介護実践を実践研究としてまとめる	レジュメの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
14 .	介護実習 - 2 介護実践報告会 介護実践の研究を発表する	パワーポイントの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
15 .	まとめ 介護福祉士として大切にしたいこと「私の目指す介護福祉士」について目標をたてる	これまでの学習を振り返っておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。	
教科書	新・介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』中央法規 「専攻科介護実習マニュアル」		
参考書			
学習成果の評価方法	レポート提出（50%）、グループワーク参加（40%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。 レポートはフィードバックしたうえで返却する。		
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は、介護福祉士として5年の実務経験を有する。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きにくること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。クラスルームでも質問を受け付ける。		

科目	介護実習	開講時期 履修方法	1年通年 必修、専門科目
担当者	森永牧子・小川理紗	授業形態 単位数	実習 5単位
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士養成課程等で学んだ内容を踏まえて、地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。 ・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。 ・多様な介護現場において利用者理解を中心に、コミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術について学ぶ。 ・利用者の自立支援に向けた専門職としての実践について学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（5）に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、地域、社会に貢献することができる。 ・利用者への理解を深めるためのコミュニケーション能力を身につける。 ・実習施設の概要や関連職種との連携を理解する。介護実習記録や介護過程の展開内容を適切に記述できる。 ・生活者として利用者をとらえ、それを支える介護福祉士の役割について理解できる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個別性の理解について、実習中の事例にもとずき実習記録にまとめることができる。 ・介護過程の展開について、介護過程様式にまとめ、発表することができる。 ・実習を通して学んだ介護福祉士の役割についてレポートを作成することができる。 		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
	<p>介護実習 - 1・2・3（80時間）</p> <p>実施施設： 老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能、通所介護、訪問介護、障害者支援施設など</p> <p>学修内容： 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、地域でのさまざまな生活の場における個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じ、介護福祉士の役割について実践をとおして学ぶ。</p> <p>目標： 利用者の尊厳を護り個別性を理解し、その人らしい生活支援を学ぶ。 介護サービスが必要な利用者の様々な場での生活を理解する。 利用者の個別性を理解し、コミュニケーションを図ることができる。 チームケアの一員としての介護職の役割や他職種との連携を理解する。 地域における生活支援の実践について学ぶ。</p> <p>介護実習 - 1・2（160時間）</p> <p>実施施設： 老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能、通所介護、訪問介護、障害者支援施設など（実習指導者在籍施設）</p> <p>学修内容： 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供となる実践力を学ぶ。</p> <p>対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。</p> <p>目標： 利用者が望む生活の実現のために、ICFを活用したアセスメント方法で、利用者のニーズを明確にする。 担当利用者の介護過程を展開（アセスメント、ニーズの把握、介護計画の立案、実施、評価・考察）を行い、根拠（エビデンス）に基づいた個別ケアを実践する。 利用者本位の介護サービスを提供するために、他職種共同による体制であることを理解する。 人権擁護、職業倫理を身につけ、自らの介護観を構築する。</p>	<p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前までに学んだ内容を再度見直し確認する。 ・実習施設の概要等を調べる ・実習に対する自分の目標を明確にする。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習で学び体験したことを振り返り実習のまとめと、記録類の整理をする。 ・まとめた記録類とともに自己評価を記入する。 ・介護過程の展開を振り返り「介護過実践報告会」に備える。 	
教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」 中央法規 「専攻科介護実習マニュアル」		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度・巡回指導（10%）授業内課題・実習記録・介護過程様式（20%）実習評価表（50%）レポート（20%）で総合的に評価します。		
特記すべき事項	記録物の提出期限を厳守すること。利用者の生活の場での実践にふさわしい態度で臨んで下さい。担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。		
質問・相談等の受付	実習中の相談は前もって連絡を受け、実習巡回時に対応します。		

科目	発達と老化の理解	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間の成長発達過程における老化を理解し、老化が及ぼす身体的・心理的・社会的変化に関する基礎的な知識を習得する。また、老年期の課題を総合的に学ぶことで、高齢者の尊厳を守り、自立を促す支援を考える。本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	1.人間の成長発達・発達課題を理解し、老化に伴う様々な変化、日常生活への影響を理解する。 2.老年期の発達課題や疾患の特徴を理解し、日常生活援助における留意点を述べることができる。		
学習成果の評価基準	目標に到達する過程で、小テストや課題レポートを盛り込み、授業に対する理解度や復習の状況を確認する。また授業の中では、ディスカッションで様々な意見に触れあう機会を設け、グループ学習における積極性・学習態度についても評価とする。授業終了後は、定期試験を実施し、総合的に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	人間の成長と発達	教科書 第1章、配布資料	
2.	人間の成長と発達	教科書 第1章、配布資料	
3.	人間の発達段階と発達課題 - 発達理論	教科書 第2章、配布資料	
4.	老年期の特徴と発達課題	教科書 第3章、配布資料	
5.	老年期の特徴と発達課題	教科書 第3章、配布資料	
6.	老化に伴う身体的変化と生活への影響	教科書 第4章、配布資料	
7.	老化に伴う心理的变化と生活への影響	教科書 第4章、配布資料	
8.	老化に伴う社会的変化と生活への影響	教科書 第4章、配布資料	
9.	高齢者に多い症状・疾患の特徴	教科書 第5章、配布資料	
10.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点	教科書 第5章、配布資料	
11.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点	教科書 第5章、配布資料	
12.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点	教科書 第5章、配布資料	
13.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点	教科書 第5章、配布資料	
14.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点	教科書 第5章、配布資料	
15.	保健医療職との連携	教科書 第5章、配布資料	
教科書	最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	小テスト・課題レポート(30%)、学習態度(10%)、定期試験(60%) その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき事項	実務経験 看護師(11年)、保健師(3年) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	認知症の理解	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	城戸由香里	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症の基礎的知識、認知症患者の行動パターン、意思表示困難なことを把握し、被介護者の家族のみならず周囲の環境への配慮について、学ぶ。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	認知症の基礎的知識の習得とそれに基づく専門的介護の視点を持つことが出来る。		
学習成果の評価基準	認知症の基礎的知識の習得については、授業内の課題にて評価する。 専門的な介護の視点については、レポートにおいて評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	認知症を取り巻く状況 (認知症ケアの歴史)	テキストにて予習・復習	
2.	認知症を取り巻く状況 (認知症ケアの理念)	テキストにて予習・復習	
3.	認知症を取り巻く状況 (認知症高齢者の現状と今後)	テキストにて予習・復習	
4.	医学的側面から見た認知症の基礎 (認知症の診断方法)	テキストにて予習・復習	
5.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症による障害(中核症状とBPSD)	テキストにて予習・復習	
6.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症と間違えられやすい症状(うつ病、せん妄)	テキストにて予習・復習	
7.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 (アルツハイマー型認知症)	テキストにて予習・復習	
8.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 (アルツハイマー型認知症)	テキストにて予習・復習	
9.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 (脳血管型認知症)	テキストにて予習・復習	
10.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 (レビー小体型認知症)	テキストにて予習・復習	
11.	医学的側面から見た認知症の基礎 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 (前頭側頭型認知症)	テキストにて予習・復習	
12.	若年性認知症	テキストにて予習・復習	
13.	認知症の予防	テキストにて予習・復習	
14.	認知症の対応	総復習	
15.	まとめ	総復習	
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集「新・介護福祉士養成講座 認知症の理解」中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(15%) 授業内レポート(15%) 授業内課題(70%) 課題、レポートについては授業内にフィードバックします。		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、学修支援室にて受け付けます。		

科目	認知症の理解	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につながる内容とする。また、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。更には、認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援につながる内容とする。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえた認知症ケアについて理解する。 認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、他職種連携・協働による支援について理解する。 認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援について理解する。 		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度(遅刻・居眠り等含む)授業時の課題等にて評価する。授業中、DVD等の感想を求め、授業内課題の評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	認知症当事者の視点からみえるもの	認知症について学習しておく	
2.	認知症の人の思いを尊重したサポート方法	教科書第3章3節の予習・復習	
3.	パーソン・センタード・ケア	教科書第4章1節の予習・復習	
4.	認知症の人の理解と特性を踏まえたアセスメントツール	教科書第4章2節の予習・復習	
5.	認知症の人の理解と特性を踏まえたアセスメントツール	教科書第4章2節の予習・復習	
6.	認知症の人とのコミュニケーション	教科書第4章3節の予習・復習	
7.	認知症の人への生活における支援	教科書第4章4節の予習・復習	
8.	認知症の人への生活における支援	教科書第4章4節の予習・復習	
9.	認知症の人への様々なアプローチ	教科書第4章5節の予習・復習	
10.	認知症の人の終末期医療と介護	教科書第4章6節の予習・復習	
11.	認知症の人にとっての物理的環境の役割と重要性	教科書第4章7節の予習・復習	
12.	介護者支援 家族支援 エンパワメント、レスパイトケア	教科書第5章1節の予習・復習	
13.	介護者支援 介護福祉職への支援	教科書第5章2節の予習・復習	
14.	認知症の人の地域生活支援 制度、サービス、機関、地域づくり	教科書第6章1節の予習・復習	
15.	認知症の人の地域生活支援 他職種連携と協働	教科書第6章2節の予習・復習	
教科書	新・介護福祉養成講座 12 『認知症の理解と介護』中央法規		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(15%)、授業内課題(15%)、定期試験(70%) 各課題については授業内で評価、コメントしフィードバックする。		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問は授業終了後、研究室にて受け付ける。		

科 目	障害の理解	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>障害者福祉に関する基礎的知識を学び、障害のある人の身心の状況を理解し、地域や家族も含めた障害のある人への生活支援について学習する。 「完全参加と平等」という考えの基、ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンという理念が普及してきた。そのような中で、全ての人々が人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を支える介護者としての役割を考え、障害者福祉における自己の価値観や介護観を模索する。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。</p>		
到達目標	<p>1. 障害者福祉に関する制度について理解する。 2. 障害別の特性を理解し、その特性を考慮した支援を考え述べることができる。 3. 地域における、障害のある人および家族への支援について、自己の考えを述べるができる。</p>		
学習成果の評価基準	<p>目標に到達する過程で、小テストや課題レポートを盛り込み、授業に対する理解度や復習の状況を確認する。 また授業の中では、ディスカッションで様々な意見に触れあう機会を設け、グループ学習における積極性・学習態度についても評価とする。 授業終了後は、定期試験を実施し、総合的に評価する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	障害の概念	教科書 第1章、配布資料	
2.	障害者福祉の基本理念	教科書 第1章、配布資料	
3.	障害者福祉制度と介護保険制度	教科書 第1章、配布資料	
4.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 障害のある人の心理	教科書 第2章、配布資料	
5.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 運動機能障害	教科書 第2章、配布資料	
6.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害	教科書 第2章、配布資料	
7.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 内部障害	教科書 第2章、配布資料	
8.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 内部障害	教科書 第2章、配布資料	
9.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 重症心身障害	教科書 第2章、配布資料	
10.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 知的障害、精神障害、発達障害	教科書 第3章、配布資料	
11.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 高次機能障害	教科書 第3章、配布資料	
12.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 難病	教科書 第3章、配布資料	
13.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 難病	教科書 第3章、配布資料	
14.	障害者の地域生活における支援 多職種連携と協働	教科書 第4章、配布資料	
15.	障害のある人の家族への支援	教科書 第5章、配布資料	
教科書	最新 介護福祉士養成講座14 障害の理解 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	小テスト・課題レポート(30%)、学習態度(10%)、定期試験(60%) その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき事項	実務経験 看護師(11年)、保健師(3年) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	からだのしくみ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践の根拠となる基礎知識として、解剖生理を基に人間の身体構造及び機能について学習する。また、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学習する。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	1.人体の解剖学的構造・機能について理解できる。 2.心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響を理解し、変化に対応するための観察点を述べることができる。 3.疾病発生のメカニズムを学習することで、健康を意識し、予防の視点を考慮した介護実践について考えることができる。		
学習成果の評価基準	目標に到達する過程で、小テストや課題レポートを盛り込み、授業に対する理解度や復習の状況を確認する。 また授業の中では、ディスカッションで様々な意見に触れあう機会を設け、グループ学習における積極性・学習態度についても評価とする。 授業終了後は、定期試験を実施し、総合的に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	健康とは何か	教科書 序章、配布資料	
2.	人をつくる細胞・生命維持と恒常性のしくみ、身体の部位	教科書 第2章、配布資料	
3.	脳・神経系、感覚器のしくみ	教科書 第2章、配布資料	
4.	呼吸器・循環器系のしくみ	教科書 第2章、配布資料	
5.	消化器・栄養吸収のしくみ	教科書 第2章、配布資料	
6.	腎・泌尿器のしくみ	教科書 第2章、配布資料	
7.	骨・関節、筋肉のしくみ	教科書 第2章、配布資料	
8.	内分泌・生殖器のしくみ	教科書 第2章、配布資料	
9.	「移動」に関連したところとからだのしくみ	教科書 第3章、配布資料	
10.	「身じたく」に関連したところとからだのしくみ	教科書 第4章、配布資料	
11.	「食事」に関連したところとからだのしくみ	教科書 第5章、配布資料	
12.	「入浴・清潔保持」に関連したところとからだのしくみ	教科書 第6章、配布資料	
13.	「排泄」に関連したところとからだのしくみ	教科書 第7章、配布資料	
14.	「休憩・睡眠」に関連したところとからだのしくみ	教科書 第8章、配布資料	
15.	死にゆく人のところとからだのしくみ	教科書 第9章、配布資料	
教科書	最新 介護福祉士養成講座11 ところとからだのしくみ 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	小テスト・課題レポート(30%)、学習態度(10%)、定期試験(60%) その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき事項	実務経験 看護師(11年)、保健師(3年) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	こころのしくみ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	徳本 祥	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>保育士養成課程で学んだ内容を踏まえ、介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理（記憶、知能、学習、感情など認知機能のはたらき、それらと脳の機能との関連、終末期ケアにおける利用者とその家族の心理）を学習する。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果（1）に対応する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場に於いて、脳の機能障がい 認知機能(記憶、知能、情動)の障がい 精神症状・問題行動という一連の流れをできる。 ・介護現場で終末期を迎える利用者とその家族の心理を理解できる。 		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回講義内容をノートする。 ・中間試験、期末試験で6割以上得点する。 		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	こころのしくみの理解 健康とは・人間の欲求の基本的理解	健康とは何かを考えておく	
2.	こころのしくみの理解 自己概念と尊厳	「心身相関」、「人間の尊厳」の意味を調べる	
3.	こころのしくみの理解 脳とこころの関係	脳地図を見て脳の各部位の名称を調べる	
4.	こころのしくみの理解 脳とこころの関係	脳の各部位の機能を理解する	
5.	こころのしくみの理解 欲求と動機付け	「自己実現」の意味を調べる	
6.	こころのしくみの理解 記憶のしくみ	認知症者の記憶障害について調べる	
7.	こころのしくみの理解 知能のしくみ	認知症者の知能障害について調べる	
8.	こころのしくみの理解 学習のしくみ(1)	「行動変容」の具体例を考える	
9.	こころのしくみの理解 学習のしくみ(2)	「認知構造変容」の具体例を考える	
10.	こころのしくみの理解 適応と適応機制	我々の日常生活に於いて用いられる「防衛機制」を調べる	
11.	生活場面におけるこころの変化の気づきと医療職との連携	日常生活における生活支援の観察のポイントを学習しておく	
12.	ターミナルケア	人生の最終段階の患者とその家族へのケアの事例を探す	
13.	死の受容	人生の最終段階における死を受け容れる過程の事例を探す	
14.	グリーフケア	愛する人の死を受容する過程の事例を探す	
15.	まとめ 生活支援の根拠となるこころのしくみ	これまでのプリントを振り返っておく	
教科書	毎回プリント資料配付		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度(20%)、小テスト(40%)、定期試験(40%) 小テスト、定期試験については、コメントにてフィードバックする。		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業終了後、学修支援室にて受け付ける。		

科目	医療的ケア	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗・才田和美	授業形態 単位数	講義 3単位
授業概要	医療的ケアを行うために必要な基礎知識及び方法について学ぶ。また、医療チームとの連携のもと、医療的ケアを安全かつ適切に実施するための知識及び技術を習得する。 本授業は、専攻科福祉専攻の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士が医療的ケアを実施する背景について理解する。 2. 医療的ケアにおける、安全管理・感染予防・健康状態の把握・急変時の対応について理解できる。 3. 医療的ケアに関するからだのしくみ、技術を理解できる。 4. 喀痰吸引に関わる器官の構造・機能を理解したうえで、喀痰吸引を安全に実施できる。 5. 経管栄養に関わる器官の構造・機能を理解したうえで、経管栄養を安全に実施できる。 		
学習成果の評価基準	この科目では、技術の習得が最終目標となるため、筆記試験と実技試験を実施し評価する。 単元の節目では、小テストや課題を盛り込み、授業に対する理解度を確認していく。 また、演習においては確実な手技を獲得することを求めるため、積極的に学ぼうとする態度や演習へのレディネスも評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
	<p>第1回 医療的ケアの目的、制度について(第1章、第1節)</p> <p>第2回 医療行為と医療倫理(第1章、第1節)</p> <p>第3回 安全な療養生活(第1章、第2節)</p> <p>第4回 安全な療養生活(第1章、第2節)</p> <p>第5回 清潔保持と感染予防(第1章、第3節)</p> <p>第6回 標準予防策(第1章、第3節)</p> <p>第7回 健康状態の把握(第1章、第4節)</p> <p>第8回 緊急時の対応(第1章、第4節)</p> <p>第9回 呼吸のしくみ、呼吸の異常(第2章)</p> <p>第10回 喀痰吸引 口腔・鼻腔(第2章)</p> <p>第11回 喀痰吸引 気管カニューレ(第2章)</p> <p>第12回 喀痰吸引 子どもの吸引(第2章)</p> <p>第13回 呼吸器感染予防(第2章)</p> <p>第14回 喀痰吸引における安全管理(第2章)</p> <p>第15回 吸引による事故発生時の対応(第2章)</p> <p>第16回 喀痰吸引の実施手順(第2章)</p> <p>第17回 喀痰吸引の実施手順(第2章)</p> <p>第18回 喀痰吸引の実施手順(第2章)</p> <p>第19回 喀痰吸引に伴うケア、報告・記録(第2章)</p> <p>第20回 喀痰吸引の振り返り(第2章)</p> <p>第21回 喀痰吸引の振り返り(第2章)</p> <p>第22回 消化器系のしくみ、嘔下のしくみ(第3章)</p> <p>第23回 経管栄養法 経鼻経管栄養(第3章)</p> <p>第24回 経管栄養法 胃ろう・腸瘻経管栄養(第3章)</p> <p>第25回 経管栄養法 子どもの経管栄養(第3章)</p> <p>第26回 経管栄養に関する感染予防(第3章)</p> <p>第27回 経管栄養における安全管理(第3章)</p> <p>第28回 経管栄養による事故発生時の対応(第3章)</p> <p>第29回 経管栄養の実施手順(第3章)</p> <p>第30回 経管栄養の実施手順(第3章)</p> <p>第31回 経管栄養の実施手順(第3章)</p> <p>第32回 経管栄養に必要なケア、記録・報告(第3章)</p> <p>第33回 経管栄養の振り返り(第3章)</p> <p>第34回 経管栄養の振り返り(第3章)</p> <p>全過程終了後、演習の時間を設ける。 口腔内喀痰吸引・鼻腔内喀痰吸引・気管カニューレ内喀痰吸引 各5回以上 胃ろう・腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養 各5回以上 救急蘇生法 1回以上実施する必要がある。</p>	<p>左記提示章の予習及び、講義時配布の資料も参考に、技術をイメージするための自己学習。</p> <p>復習をし、演習ができるように準備する。</p>	
教科書	最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度(20%)、実技試験(80%) その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき事項	実務経験 小川：看護師(11年)、保健師(3年) 中村：看護師(5年)、保健師(3年)		
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室		

科目	臨床心理学（特講）	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	臨床心理学における心理療法・カウンセリングの基本を理解し、愛着の問題や児童虐待などの心的外傷に関する支援方法を学ぶ。 本授業は、幼児教育学科の学習成果（3）に対応する。		
到達目標	愛着の問題や児童虐待などの心的外傷のある子どもに見られる特徴を理解し、早期に気づくことができるようになる。また、子どもへの心理的支援および保護者への対応について理解する。自分史を振り返り、保育者としての課題を見つけることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している心的外傷のある子どもへの理解と支援に関する学習の達成度を測るために、到達確認テストを実施し評価する。また、自分史の作成も評価の対象とする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	こころの仕組みと保育	シラバスを確認しておく	
2.	心理療法の基本的な考え方 精神力動論的立場	フロイトの理論を復習する	
3.	心理療法の基本的な考え方 認知行動論的立場	学習理論を復習する	
4.	心理療法の基本的な考え方 人間成長論的立場	マズローの欲求段階説を予習しておく	
5.	保育心理士におけるカウンセリング	相談しやすい人が持つ共通の特徴について、考えを整理しておく	
6.	カウンセラーの基本的な態度	配布資料を復習する	
7.	カウンセリングの様々な技法	配布資料を復習する	
8.	愛着理論 アタッチメントとストレンジシチュエーション	愛着について1年前期に習ったことを復習しておく	
9.	愛着理論 愛着障害	愛着障害について復習する	
10.	愛着理論 愛着障害に対する対応と支援	愛着障害と発達障害の鑑別のポイントについて復習する	
11.	トラウマ理論 単回性トラウマとファーストエイド	ファーストエイドの実践を人形等を用いてやってみる	
12.	トラウマ理論 慢性反復性トラウマ	児童虐待の現状について、これまで学習したことを整理しておく	
13.	児童虐待 チャイルドマルトリートメント	しつけと虐待の違いについて意見をまとめておく	
14.	児童虐待 事例検討	配布資料を読み込み、レポートを作成する	
15.	児童虐待 事例検討ふりかえり	配布資料を読み込みレポートを作成する	
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度（10%）授業内課題（50%）【 自分史作成レポート 】（40%）		
特記すべき事項	臨床心理士として11年の実務経験 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く		

科 目	保育心理演習	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・岡田健一	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>保育心理士としての基礎的概念を理解し、子どもの気質的、または環境的背景の観察や把握、および支援方法について学ぶ。さらに、大人にとって「問題行動」と思える子どもの言動を深く理解し、個別支援実習に備え、その子に合わせた支援を考える。本授業は、幼児教育学科の学習成果(3)に対応する。</p>		
到達目標	<p>プレイセラピーの基本や、子どもの内的イメージへの理解を深めることができるとともに、子どもの心やその表現に寄り添う姿勢を身につけることができる。「問題行動」を子ども側から理解し、子どもの内的なメッセージを受け取る姿勢を身につけることができる。さらに、個別支援実習に向けた準備が整えられる。</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示しているプレイセラピーの基本理解や、子どもの内的世界への理解の達成度を測るために、到達度確認課題を実施し評価する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	保育とセラピー	子どもの「遊び」の意義について1年次に学習したことを整理しておく	
2 .	プレイセラピーの基本	アクスラインの8原則について復習する	
3 .	事例で学ぶプレイセラピー	慢性反復性トラウマについて復習しておく	
4 .	保育現場におけるプレイセラピーの活用	子どもの頃に夢中になった遊びを考えておく	
5 .	事例で学ぶ表現療法 アートセラピー	象徴表現について復習する	
6 .	事例で学ぶ表現療法 サンドプレイセラピー	象徴表現について復習する	
7 .	体験で学ぶ表現療法 コラージュ療法	配布資料を復習する	
8 .	体験で学ぶ表現療法 クレパス画・スクイグル	配布資料を復習する	
9 .	子どもの「問題行動」の理解	子どもの「問題行動」の例を探してくる	
10 .	「問題行動」場面における子どもの心の理解	「問題行動」場面における子どもの理解を考えてくる	
11 .	子ども理解に合わせた日常での支援の工夫	支援の工夫を自分でまとめる	
12 .	教科書発表(前半)	教科書を読みレポートを作成してくる	
13 .	教科書発表(後半)	教科書を読み、レポートを作成してくる	
14 .	事例検討：ケースの見立てと個別支援計画	事例理解のポイントを復習する	
15 .	個別支援実習に向けて	個別支援実習の準備を整える	
教科書	山田真理子(2004)：子ども・こころ・そだち 機微を生きる , エイデル研究所		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度(20%)教科書発表(20%)授業内課題(60%)		
特記すべき事項	保育心理士(二種)必須 個別支援実習を希望する学生は必ず受講すること 河村：臨床心理士として11年の実務経験, 岡田：臨床心理士として19年の実務経験		
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く		

科目	保育心理	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。保育心理士資格の概要や専門性への理解を深めるとともに、保育心理士養成課程の学びの基礎を培う。授業の一部は、1日ワークショップ（5コマ対応）として開講する。 本授業は、幼児教育学科の学習成果（3）に対応する。</p>		
到達目標	<p>1．保育心理士の仕事について理解するとともに、保育心理士にふさわしい子ども観、態度を身につける 2．保育心理士として子どもや保護者と関わるために必要な人間性やコミュニケーション技術の基礎を学ぶ 3．子ども理解と観察の視点を学ぶ</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している3点の到達度を測るために、受講態度（積極的参加）に加えて、授業課題と1日WSレポート課題を実施し、評価する。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1．	オリエンテーション 保育心理士資格の背景と役割、日本の環境と子どもの現状、保育現場の新しい課題	教科書(1)を読む	
2．	学びの動機と目的、保育心理士にふさわしい子ども観、態度	配布資料を読み直す	
3．	感性のトレーニング1（からだで感じる）	配布資料を読み直す	
4．	感性のトレーニング2（気持ちとの距離を考える）	配布資料を読み直す	
5．	感性のトレーニング3（気持ちや感じを尊重する）	配布資料を読み直す	
6．	0歳～5歳の発達1：教科書発表	教科書(2)をまとめる	
7．	0歳～5歳の発達2：教科書発表	教科書(2)をまとめる	
8．	0歳～5歳の発達3：教科書発表	教科書(2)をまとめる	
9．	障害のある子ども、アセスメント、発達の特性に合わせた保育	教科書(1)を読む	
10．	感覚統合	教科書(1)を読む	
11．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション1（リラックスと表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
12．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション2（信頼とコミュニケーション）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
13．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション3（想像と創造）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
14．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション4（共感と協同）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
15．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション5（イメージ表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
教科書	<p>(1)牧野桂一・山田真理子（編）(2007):保育心理．樹心社． (2)山田真理子(1997):機微を見つめる－心の保育入門－．エイデル研究所．</p>		
参考書	<p>山田真理子・原陽一郎(2007):抱っこしてもいいの？－Q&A子どもに学ぶ子育てのヒント－．エイデル研究所．</p>		
学習成果の評価方法	<p>授業課題40%、教科書発表30%、1日WSレポート30%</p>		
特記すべき事項	<p>保育心理士（二種）必須 単位取得のためには、2022年4月16日（土）に実施されるWSに必ず参加すること。</p>		
質問・相談等の受付	<p>質問・相談は、授業後の立ち話が研究室で受け付ける。</p>		

科 目	保育人間学	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	<p>真宗、仏教に関する基本的な用語を学びつつ、真宗保育の理念として大谷保育協会が掲げる「本願に生き、ともに育ちあう保育」について共に考えていく。 本授業は、幼児教育学科の学習成果(3)に対応する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・真宗、仏教に関する基本的な用語を理解し、自らの課題に引きつけて考えることができる。 ・保育とは、人間とは何かについての問いをもつことの大切さを知り、視野を広げ、豊かな人間性を養うことができる。 ・真宗保育とは何かという課題をもつことができる。 (知識、思考力、判断力)		
学習成果の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の達成度を測るために、毎回の振り返りやまとめを実施して評価する。 ・思考力の達成度を測るために、小レポートを実施して評価する。 ・判断力の達成度を測るために、期末レポートを実施して評価する。 		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	ガイダンス シラバスの確認	シラバスを読む・ガイダンスの内容を振り返る	
2.	人間として誕生した意味	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
3.	命の連続性と尊厳 小レポート	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
4.	幸せの物差し	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
5.	私とは何か	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
6.	悩みを宝物として 小レポート	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
7.	保育園・幼稚園・こども園の特性を生かした支援	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
8.	ともに生きともに育ちあう	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
9.	学び続ける 期末レポートに向けて	テキストを読む・ノートを振り返り整理する	
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『真宗保育のカリキュラム入門』大谷保育協会		
参考書	『いっしょに大きくなぁ～れ はじめて真宗保育にであう本 』東本願寺出版		
学習成果の評価方法	「毎回の振り返り」(40%)「小レポート」(30%)、「期末レポート」(30%)		
特記すべき事項	各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法も可。		

科 目	個別支援実習	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・河村陽子	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。児童福祉施設等において約2週間の実習を行い、対象児を1名決めて理解を深めるとともに、個別の支援の計画を立てて、可能であれば実際に実施し、支援の効果を評価する。 本授業は、幼児教育学科の学習成果（3）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別の支援が必要な子どもに気づき、対象児の理解を深めることができる 2. 対象児の理解に基づき、個別の支援計画を立てることができる 3. 可能であれば、支援の計画を実施し、支援の効果を評価できる 		
学習成果の 評価基準	<p>到達目標に明示している3点の到達度を測るために、実習巡回時の様子に注目するとともに、実習記録の確認を行う。合わせて、実習施設の評価と、実習の準備状況についても考慮する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>(実習前半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援を必要としている子どもを選び、対象児とする ・対象児の観察、職員さんへの質問（守秘義務に配慮）を通して、対象児の情報を集める ・対象児の理解と支援計画（案）を作成する <p>(個別指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象児の理解と支援の計画（案）について、個別の指導を受ける <p>(実習後半)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員さんと相談しながら、支援の計画を決定する ・可能な範囲で、計画した支援を実施する <p>(注意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援実習指導とセットで履修すること。一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格とする ・別途行う実習準備に参加しない場合や、期限内の書類の提出がない場合、課題がクリアできない場合は、実習を開始できない ・抗体検査や予防接種、細菌検査等、実習受け入れに必要な準備が整わない場合は、実習を開始できない ・実習には、実習費および、食事代等の実費が必要となる 	<p>実習時間に起きたことの記録（実習記録）を作成し、対象児の理解と自己理解を深める</p>	
教科書	岡田健一(2022):個別支援実習ワークブック。(授業内で配布)		
参考書	牧野桂一・山田真理子(編)(2007):保育心理.樹心社.		
学習成果の 評価方法	実習施設による評価・実習事前準備30% 大学評価70%		
特記すべき 事項	保育心理士（二種）必須 注意点については、授業計画（授業内容）も参照のこと		
質問・相談等 の受付	実習中の相談は、個別にお知らせする連絡先で受け付ける。		

科 目	個別支援実習指導	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・河村陽子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。個別支援実習での取り組みを、事例検討という形で振り返りながら、保育心理士としての子ども理解の視点と具体的な支援を学ぶ。単位取得を希望する学生は、自分の個別支援実習の様子を発表すること。</p> <p>本授業は、幼児教育学科の学習成果（3）に対応する。</p> <p>各授業において予習30分、復習30分を必要とする。</p>		
到達目標	<p>1．実習での取り組みを事例レポートの形でまとめ、報告できる</p> <p>2．対象児の生活の様子から、対象児の願いとニーズを理解することができる</p> <p>3．対象児の安心安全な生活保証し、成長を促す支援を考えることができる</p> <p>4．支援者としての自分を振り返り、自己の課題と成長の方法を明らかにする</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している1を測るため、事例発表を評価する。4を測るため、最終レポートを評価する。2および3については、事例発表、他の学生の発表へのコメント、最終レポートにて評価する。</p>		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授業時間外学習 予習・復習	
1．	オリエンテーション	授業後に事例レポートを作成・提出し、個別の添削指導を受ける	
2．	事例検討 1	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
3．	事例検討 2	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
4．	事例検討 3	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
5．	事例検討 4	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
6．	事例検討 5	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
7．	事例検討 6	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
8．	事例検討 7	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
9．	事例検討 8	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
10．	事例検討 9	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
11．	事例検討 1 0	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
12．	事例検討 1 1	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
13．	事例検討 1 2	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
14．	事例検討 1 3	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
15．	事例検討 1 4	報告者：事例レポートを準備 参加者：参加者レポートを提出	
教科書	岡田健一(2022):個別支援実習ワークブック.		
参考書	牧野桂一・山田真理子(2007):保育心理.樹心社.		
学習成果の評価方法	事例発表30%、事例検討への積極的参加50%、最終レポート20%		
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須 原則、個別支援実習とセットで履修すること		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話が研究室で受け付ける。		